

令和4年度 富島高等学校（全日制） 学校評価

スローガン「新時代に向けて必要となる資質・能力に富んだ人材の育成！」
～ 地域社会と連携し、未来の創り手を育成するために必要な学校教育の創造 ～

【学校関係者評価のポイント】

- ・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。
- ・自己評価の結果は、指標等をもとにした妥当なものであるか。
- ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。

校訓 教育目標
自立 己の個性を伸ばす**自立**の心を育て、
友愛 信頼と協調により**友愛**を深め、
創造 心豊かな生活を目指して**創造力**を伸ばし、
 知・徳・体の調和のとれた人材を育成する。

重点目標
 志を持つ生徒育成のために
 (1) 「頭」を鍛え、伸ばす(個に応じた学力向上と進路実現)
 (2) 「心」を鍛え、伸ばす(心の教育の推進と充実)
 (3) 「体」を鍛え、伸ばす(体の育成と食育・健康教育の推

具体的取組 (キーワード)
 (1) 確かな学力を育む教育の充実
 (2) 多様な人材を育む教育の推進
 (3) 学習環境の整備
 (4) 読書の推進

重点目標	評価項目	具体的方策 又は 具体的指標	自己 評価	成果及び改善策	学 校 関係者 評 価	評価・具体的意見
(一) 「頭」を鍛え、伸ばす (個に応じた学力向上と進路実現)	① 学習環境の整備と授業環境の支援を図る	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学ぶ意欲や授業態度を育成する ○ 手帳の活用 ○ 生徒の能力を伸ばす指導と学習の遅れを考慮した指導の推進を図る 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本年度も、新型コロナウイルス感染拡大で時差登校等の期間があったが、例年に比べると、生徒の学習活動に大きな影響を与えることは少なかった。 ○ 職員が相互に授業を参観したり、自習中の生徒の様子を見る授業参観期間を月1回実施した。落ち着いた学習環境を整えることに繋がっている。また、定期テスト前に学習に遅れを感じる生徒に個別学習指導を行うなど充実した学習支援を行うことができた。 ○ 授業開始2分前に予鈴を鳴らしている。授業に臨む姿勢を作る効果があるので今後も継続したい。生徒が授業に遅れることがなくなり、落ち着いた雰囲気での授業をスタートできている。 ○ 机椅子の交換など、環境整備部、事務局と連携を取って整えるなど、教育環境の整備を行うことができた。 ○ 生徒に自己管理や能率アップを目的に手帳を持たせている。集会時のメモや時間割管理を行っている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習環境の整備を図る上で一番の課題は、コロナ感染症予防対策であったと思う。宮崎県では6/20には感染者60人と小康状態に入ったと思われたが、8/23には2,505人に上昇、紆余曲折の中で、現在を迎えている。そんな中で、生徒に学ぶ意欲とその環境を与えたのは高く評価できると思う。 ○ 予定の授業開始2分前や授業参観の実施など、授業を落ち着いた雰囲気でも進められるような工夫が良いと思う。 ○ 生徒の授業に対する入り方や意識が良い方向を向くよう先生方の工夫を色々とお願ひしたい。
	② 授業力の向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校内研修・校外研修へ積極的に参加し、授業力の向上を図る 	C	<ul style="list-style-type: none"> ○ 初期研修や外部講師の授業、県主催の指導力向上研修へ積極的に参加し、授業力の向上を図っている。また、情報機器 (ICT) を活用した授業を各教科行っており、自己研鑽に努めている雰囲気が見られる。 ○ 新学習指導要領がスタートした。学習評価の方法など今後更に研修を積んでいく必要がある。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ○ ICT(情報機器)を使った一人一台端末の事業が始まった段階であり、今後の取組次第で、より良い成果が出てくるものと期待したい。 ○ 1年生から始まったようなので徐々に授業に活用して欲しい。 ○ 指導力向上の取組を個々の先生方が積極的に図り、自己評価を上げていただけると嬉しいです。
	③ 専門教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 専門教育を充実させ、ビジネス教育や家庭教育の推進を図る ○ ICTを活用した学習の充実を図る ○ 産学官連携・高大連携による専門的知識・技術の向上を図る 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度はより実践的な学習機会が増えており、外部企業との連携においても成果が出ている。「3Rr」「SSファーム」「商品開発」など、体験的な学習も行っており、生徒の学びにつながっている。(商) ○ ICTについては、有効的な活用方法を模索中である。事例を共有し、より効果のある活用方法について研修を深めたい。(商) ○ 専門学校との連携事業を行っている。(商) ○ 1年生で家庭科全般を学び、2・3年生では3コース選択により、さらに専門的な学習を行っている。また、コースごとの発表の場として文化祭や地域イベントに参加し、より実践的な学びができた。1年生の「生活産業基礎」の授業では、外部講師による講話を通して、専門分野に関する職業意識が高められた。(生) ○ iPadやプロジェクターの活用により授業の幅が広がった。(生) ○ コースごとで外部講師招聘や校外研修を実施し、専門的な学習が深まった。(生) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ キャリア教育を充実させ、将来に向けて自分はどう成長していけるのかを、高校生の内に目指せるように「産官学」連携の中で豊富な情報提供ができるような学習機会をさらに設けて欲しい。 ○ 地域に根ざした学校として、地域での様々な行事等に、進んで参加するような生徒を育てて欲しい。 ○ ICT機器の活用は、先生それぞれにバラツキが無いよう、授業運営とは逆に、若手がベテラン先生に対して指導するなど、相互に刺激し合うことも必要かと考えます。 ○ 外部企業の連携は、企業側の方と話しをする機会がとて前向きに取り組んでくれて嬉しいなどの声を聞きます。企業の方も、新しい発見や視点が見つかって勉強になると言われていました。
	④ 資格取得の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資格取得を推進し、検定学習を通して、チャレンジ精神、問題解決力、学びに向かう力を醸成する ○ 生徒の理解度に対応した指導体制の確立を図る 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 科目によってはTTを活用した指導により、学びの個別最適化が実現できている。(商) ○ 昨年度よりも検定試験に対する意識が向上しているように感じられる。検定前補習指導も行い、チャレンジする検定数も増加している。(商) ○ 検定が目的とならないよう、指導に配慮したい。(商) ○ 専門的な知識・技術の徹底を図るために家庭科技術検定を実施し、合格に向けて練習を積むことで知識・技術の取得とともに精神面での成長が見られた。(生) ○ 意欲的に検定取得に向けて努力する生徒が多い。しかし、理解度に個人差が多いため、放課後の補習の実施や個別の指導を行った。(生) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資格取得は、自分の人生において最も重要なものになってくることを実感させ、左述しているとおり「検定が目的とならないよう、指導に配慮したい。(商)」というように、生徒にとっても本気度を高める取組であって欲しい。 ○ 例えば情報処理系の国家資格のITパスポート等、比較的簡単な資格なので取得させてみては。

※ A：十分達成 B：概ね達成 C：検討の余地あり D：不十分

	⑤ キャリア教育の推進	○ 各教科の授業のみならず、全教育活動を通じたキャリア教育を推進し、生徒の学ぶ意欲の喚起と学力の向上につなげる	B	○ 昨年度までに引き続き今年度もコロナの関係で制限や形態の工夫が必要になったが、進路意識を高めるために、1、2年生のうちより、「進路調べ学習」や「キャリア教育の日」を実施できた。そのため、ある程度は進路意識を高める事ができたと感じる。ただし、一部の生徒ではあるが、進路意識を喚起した延長線上にある、学力向上についてはさらなる努力が必要な面が否めない。	B	○ キャリア教育は、コロナ感染症の影響を一番受けた項目であったと思われる。その中でも生徒が目標達成するのに欠かせない最重要課題は、「学力向上」であることを忘れてはいけない。 ○ 今後、新型コロナウイルスの状況が緩和された際のキャリア教育充実の具体的方策を考える必要がある。 ○ 学力向上も大切であるが、学ぶ意欲の喚起の取組が具体的に実施できたことは良かった。
(個)に 「頭」を鍛え、伸ばす （個に応じた学力向上と進路実現）	⑥ 継続して就業できる社会人の育成	○ 校外外のガイダンスやインターンシップやボランティア活動の充実を図り、継続して就業する心構えを持たせる	B	○ 多くの生徒がボランティア活動に積極的に参加している点は評価できる。地域の祭りやイベント等、募集をかけると、多くの生徒が応募して状況があることは本校生のすばらしい点である。インターンシップは、コロナ禍でほぼ実施できていない。今後は、キャリア教育を充実させ、社会に出る準備をさせたい。 ○ 「働くこと」については、3年生の「総合的な探求の時間」で就労関係についての時間を設けて意識を高めさせた。今年度は、数年ぶりに2年生の就職希望者にインターンシップを課し、就業についての心構えを、ある程度ではあるが、もたせることが期待できる。1年生にも「キャリア教育の日」などを通して、就労することについて考えさせる。	B	○ 若者の離職率の高い時代の中で、どう教育したら良いのか難しいところではあるが、「3年以上在籍したい企業」データでは、1. 良好な人間関係、2. 休みが多い・休暇が取りやすい、3. 待遇や福利厚生に満足できるがナンバー3を占めている。学校教育の指導の中では、何ともしがたいのかも知れない。 ○ 令和5年度はインターンシップを実現して欲しい。 ○ コロナ禍でボランティアをする行事が少なかったことは残念です。 ○ ビジネスコミュニケーション力は、非常に大事だと思います。 ○ 富島高校の生徒は、ボランティア活動に積極的に参加する印象があります。地域の祭りやイベントには必ずと言っていいほど富島の生徒が活動しています。担当の先生にもできるだけ地域との連携に関して積極的に取り組まれることを期待しています。 ○ ボランティア活動の積極性は素晴らしいと感じています。キャリア教育はコロナ禍で難しい面もあると思いますが、これからも積極的に取り組んで欲しいです。
	⑦ ICT教育の推進	○ ICT活用を推進し、オンライン教育と対面指導とのハイブリッドによる新しい学びを推進する ○ ICT環境の整備	B	○ 科目間や担当者間で差はあるものの、ICT機器を活用した授業はあきらかに増加している。 ○ 振り返り学習において動画コンテンツを配信したり、本日の学習内容のまとめを一つの画像として生徒と共有するなど、着実に新しい学びが定着しつつある。 ○ 生徒の意識（端末忘れ等）の向上が課題。	B	○ 私立校は、ICT機器を導入する際、学校と教職員が一体となって推進への取組が可能なのに対して、公立校は自治体・教育委員会・教職員それぞれがICT導入に対する調整が必要。ここをどうしていくかが推進上の課題ではないか。 ○ 端末の有無や性能の差による格差みたいなものが発生しないか心配です。
(2)「心」を鍛え、伸ばす （心の教育の推進と充実）	① 基本的な生活習慣の確立	○ 新しい生活様式を考慮した基本的な生活習慣の確立を図り、自立心・忍耐力の育成に努める ○ 集会等で、挨拶、礼儀、マナーの徹底、大切さを伝える機会を多く持つ ○ 各種専門委員会の活用の推進を図る	B	○ コロナウイルス感染予防の観点から、様々な場面において、指導を徹底してきた。全校が一同に集まったときのマナーなど、生徒自身の自覚を深めるまでには至らなかったことは課題である。 ○ 学校全体や生徒の様子を見極めながら、機会を見て集会等を開き、学校生活の大切さを訴えた。常時指導が理想であり、全職員の共通理解を図りたい。 ○ 各種委員会の自主的な活動が十分ではない。生徒会総務と連携して、様々な行事や活動を生徒主体で運営できるように促していきたい。	B	○ コロナ感染症予防は、社会全体の風潮として「慣れっこ」になっているのが現状としての課題。これを生徒にどう教育していくか、学校としても頭の痛い問題だと思う。「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人が動かさず」まさに山本五十六の人材育成論の活用だと思う。 ○ 青春って密な中で、新しい生活様式を確立するためには試行錯誤が必要かと思います。その中で、マナーや挨拶などの生活習慣が身につく工夫を図るのは難しいと思いますが、よろしく願いいたします。
	② 持続可能な社会の形成に参画できる教育の推進	○ 変化を前向きに捉え、人間らしく豊かに生活する社会を形成しようとする人材を育成する ○ 学校行事やボランティア活動等を積極的に推進し、地域の活性化に貢献する	B	○ 校則の見直しを2学期中に実施した（髪型や靴下、更衣期間の自由等）。同時に地域から信頼される富高生であるために、礼儀やマナー、感情に左右されず、我慢することの大切さも指導したい。 ○ コロナ禍であるものの、地域行事も再開され、ボランティアの依頼も多くなってきた。ボランティア活動に関心が高く、多くの生徒が積極的に参加した。 ○ 外部連携（企業・専門学校・地域）においても、多くの取り組みを行っており、今年度においては、メディアにも取り上げられるなど、注目された取り組みができてきている。 ○ 学科色を全面に出した取り組みを行い、PRしたい。 ○ 学校家庭クラブ活動として、月1回保育園や図	B	○ 全国的に生徒会を中心にしたブロック校則なるものを見直す傾向が見られる。しかし、高校生は高校生らしい姿であるべきで、左述しているように、我慢することの大事さを説いていくことも、学校としては必要ではないかと思う。 ○ ツーブロックの男子生徒が気になる。 ○ 校則の見直し等、柔軟な対応が良い。 ○ 地域との関わりの中で大切なのは、イベント等へのボランティアだけでなく、一般企業や各種団体との連携も必要かと思われます。就職や進学な

※ A：十分達成

B：概ね達成

C：検討の余地あり

D：不十分

			<p>書館訪問、フードバンクでのボランティアを実施した。地域の方との交流を通し、生徒自身が地域社会に目を向け、ふくしの心を身に付けるよい機会となった。</p> <p>○ 社会福祉協議会と連携し、家庭クラブ員が地域課題を見つけ改善していく活動を行った。今後も継続して活動ができるように、計画性を持って進めていきたい。</p>	<p>ど、その先を見据えて関係を強化する必要もあると思います。</p> <p>○ メディアで富島高校の活動を見ることも多かった。たくさんの方々へ取組を知ってもらえ注目されたと思います。</p>
	③ 命を大切にする教育の推進	<p>○ あらゆる場面・機会をとらえて、安全指導等を実施し、自他の命を大切にする教育を推進する</p> <p>○ 外部の団体や個人等に依頼し、命の大切さを再認識させる機会をつくる</p>	<p>B</p> <p>○ 学校内外における安全指導について、放送や個別の集会あるいは文書等を活用して指導してきた。今のところ大きな事故もない。自転車の施設率は指導を徹底した結果、100パーセントに近いところまできている。今後も生徒の危機管理意識を高めていきたい。</p> <p>○ 1学期は、九州保健福祉大学の前田直樹教授の「レジリエンスの心理学」と題して人権学習に取り組み、ストレス耐性、思春期の心の変化、SNSに関する問題についてわかりやすく解説してもらった。</p> <p>○ 2学期は、メンタルトレーナーの本田祐太郎氏の「コミュニケーション力で自分をもっと好きになる」と題して、友だちづくりについて学習をした。生徒の感想文には、日頃から相手の気持ちを大切に関係づくりに気をつけたい、と言う感想が多かった。</p>	<p>○ 私たちから見ると昔のように高校生の暴力とか犯罪についての情報は入ってこない。(ひょっとしたら外部に見えてこないかもしれないが...)これは偏に富島高校の校風がなせる業なのかと思っている。今後とも先生方には、引き続き思春期の真っ只中にいる生徒たちに、メンタル面も含めた熱い御指導をお願いしたい。</p>
	④ 安全管理の徹底	<p>○ 危機管理、防災対策に組織的に取り組み、学校の安全管理の徹底を図るとともに、生徒の危機回避能力を育成する</p>	<p>B</p> <p>○ 5月と12月に地震・津波を想定した2度の避難訓練を実施した。自身の安全確保から最寄りの校舎の3階に避難するまでの流れは徹底できた。近年はコロナ禍より、密集・密接状態を避けるために十分な訓練ができていなかったことを考慮すると、概ね達成できたように思うが、今後も継続して意識の向上に努める必要がある。</p>	<p>○ もしもの時に備え、今後とも意識の啓発も含めた、総合的な訓練が必要だと思われるので、タイムリーに取り組んで欲しい。</p>
(2) 「心」を鍛え、伸ばす (心の教育の推進と充実)	⑤ スクールリーダーの育成	<p>○ 学校行事やホームルーム活動等を通してスクールリーダーの育成に努める</p> <p>○ 体育大会や文化祭等の学校行事が生徒主体で動かせるように、生徒の組織を整えて動かす</p>	<p>B</p> <p>○ 学科の連携やクラスリーダー、部活動のリーダー育成のために、定期的に指導をする機会が必要である。3年生のリーダーをメンターとして、グループで学校活性化のために活動できる方策を考えたい。</p> <p>○ 生徒の組織を作り、数回に渡り行事を動かすための話し合い等を行った。実際行事が近づいてくると、職員が動いてしまうことが多くなり、十分に目標を達成することができなかったことは反省点である。</p>	<p>○ 学校生活の中では、特にいろんな面でみんなを引っ張っていくリーダーが必要だ。もちろん基本的には個人の持っている資質が大事だが、その生徒を中心にしたいという意識で生徒たちを選出させるような指導も必要かも。</p> <p>○ リーダーシップに関しては、様々な行事やイベントを通して、実際経験しないと得られない能力であると思います。今後様々な行事を通して、多くの生徒がリーダー育成の場面に立ち会えるといいのですが。</p>
	⑥ 特別支援教育体制の充実	<p>○ 教育相談体制を充実させるとともに、関係機関と連携して特別支援教育体制の充実を図る</p>	<p>B</p> <p>○ 毎月各クラスからの相談や教育相談室に登校する生徒を集計し、学年会や管理職へ報告すると共に支援を行い、必要なときには保護者との面談を実施した。</p> <p>○ スクールカウンセラー、日向ひまわり支援学校、延岡しろやま支援学校の先生に協力を依頼して、支援の必要な生徒の面談や支援を行った。</p>	<p>○ 大変デリケートな内容であるので、各関係機関と更なる連携を行い、今後とも十分な支援をお願いしたい。</p> <p>○ 学校生活やこれからの進路など、悩み多い生徒たちをサポートする体制の充実が今後さらに大事かと思えます。</p>
	⑦ 豊かな心の育成	<p>○ 読書や体験活動を通して豊かな心の育成に努める</p>	<p>B</p> <p>○ 静かな環境で読書をさせる必要がある。時間ギリギリに登校する生徒が多く、全職員で時間の大切さを指導する必要がある。コロナ禍で体験活動が実施できない状況が続いている。</p> <p>○ 新入生の集団行動や生徒会研修等、積極的に実施していきたいと考えている。</p> <p>○ 多くの体験活動を通して、「つながり」「かわり」が増えたことで、コミュニケーション能力の向上にもつながっていると思われる。</p> <p>○ 心配り・目配り・心配りが欠如している生徒もおり、心に訴えかけられるような手立てが必要。</p> <p>○ 学校家庭クラブ活動を通して、学科内の縦の繋がりが地域との繋がりができ、少しずつではあるが他者理解を深める機会となっている。</p>	<p>○ 豊かな心を醸成するには、いろんな人と接して、その中で自分を見直す時間を作ることが大事ではないかと思う。学校内だけの教育では限りがあると思うので、いろんな場所、いろんな行事、いろんな人を頼りにして、育ててもらおう方法もあるのではないかと。</p>
(3) 「体」を鍛え、伸ばす (体の育成と食育・健康教育)	① 健康教育や安全管理の充実	<p>○ 生徒の個々の状況に合わせた心身の健康教育や安全管理の充実を図る</p> <p>○ 生涯にわたる健康の保持・増進のための教育の推進を図る</p>	<p>B</p> <p>○ 健康講話は、性についての話から自分の生き方について考えを深める良いきっかけとなった。生徒の実態に即した講話で、生徒の感想からも非常に参考になったことがうかがえる。また、講話後などの担任によるフォローで、自分の身体・心に対する関心がより高まった。</p> <p>○ 保健室との連携をはじめ、日々の会話や観察により、生徒の小さな変化にも気づくことができています。</p>	<p>○ 思春期真っ只中の生徒には、性についての教育は大変難しいだろうと思っている。個々の発達段階が違うので保健室との密な連携は良い取組だと思う。</p>

※ A : 十分達成

B : 概ね達成

C : 検討の余地あり

D : 不十分

② 豊かな人間関係を育む	○ 部活動や学校行事等を通して自己の鍛錬と個性の伸長を図り、リーダーの育成に取り組むとともに豊かな人間関係を育む	B	○ まず、部活動の活性化は本校の活性化に必要な要素である。体育系や文化系を問わず、部活動に熱心に取り組み、学校生活を充実させることが、心豊かな人間性の育成につながる。部活動の成果も少しずつ出てきて、結果として表れてきている。部活動間の横の連携を強化しながら、職員も生徒も生き生きと活動できる部活動を目指していきたい。	○ 高校での部活動は社会人になっての大変貴重な財産になる。先輩後輩との付き合い方、結果はもちろんだが一生懸命目標に向かって頑張ったということが、個々人の貴重な宝となるからだ。教職員の働き方改革論には悩ましいものがあるが、指導する先生方には改めて敬意を表したい。 ○ 自分の子の大会などの日程は分かるのですが、他の大会の日程などが分かると応援に行ったり、横の連携に繋がるのでは。 ○ 部活や学校行事を通して学ぶことも多くあり、新生活用紙に対応した心身の学びの場の広がりや、心豊かな人を育むと考えます。
③ 新しい生活様式の推進	○ 学校生活における新しい生活様式を推進し、感染症防止に努める意識や態度を育てる	B	○ 登校後の毎朝の検温・健康観察を実施することで、自分の体調の変化にも意識を持たせることができ、健康管理ができるように習慣化されてきている。 ○ 感染症の状況に応じて、常時マスク着用や手指消毒の徹底が、定着してきた。室内換気についても、実践できるようになってきている。	○ 予断を許されない状況が続いているが、引き続き気を引き締めて感染防止に当たっていただきたい。何事にも「なれっこ」が一番怖い。